



彦島八幡宮社報
第36号

注連縄



注連縄（しめなわ）は神域などの清浄神聖な場所に不浄罪穢の侵入を禁じる標として張る縄の事です。

起源は古く、『古事記』に天照大御神様が須佐之男命の乱暴を畏れ天の岩戸にお隠れになられた時、「手力男之神、天照大御神を天之石窟ヨリ引出奉りし時、布刀玉之命、尻久米縄を以て、之より内に還り入り給ふなかれ」と記載があるように、天照大御神様を二度と天の岩戸に入れないようにと、布刀玉之命が塞いだ尻久米縄（しりくめなわ）がはじまりとされています。

新藁の端を少しづつ残して禊い、その数を七・五・三とするために七五三縄（しめなわ）と表記されます。

縄の材料は刈り取って帆脱色しないように陰干しした青々とした稲藁を使用します。地域によっては、麻を使用するところがありますが、日本古来の稲作文化と関わり合いの深さがうかがい知れます。

注連縄の型には大きく二つに分けられます。左末右本と左本右末です。一般的には左末右本です。

これは、神社では社殿に向って右を上位とする考えから、禊いはじめを右にするからです。ただし、島根県の出雲大社をはじめとする出雲地方では左本右末が主流です。

神社をはじめ、ご神木、磐座、清浄な井戸や滝にも多く掲げられています。一般的に内（浄域）と外（不浄域・俗域）を区別する結界のはたらきをします。正月に神棚、玄関、出入口、釜戸等に飾る注連飾りも注連縄の一形態と言えます。

彦島八幡宮大注連縄





宮司プレス 第三十二号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十一年一月一日

◇宮司の柴田です。

平成二十一年の清々しき新年を寿ぎ、謹んでお慶びを申し上げます。皆様方には、氏神様八幡大神様の厚き御加護のもとに、ご家族お揃いにて輝かしい新年をお迎えの事と拝察申し上げます。

◇四海生春風

昨年は、中国の大地震、米国の金融危機、ムンバイの同時テロ、国内では東京秋葉原での無差別殺人等、心が冷え込むような事件ばかり起こりました。しかも、グローバル化やネット技術の進展で、良い変化も悪い変化も世界に波及するスピードの超高速化は、今までにない現象です。それは、まるで将棋倒しのように押し寄せる不況の波にも象徴されています。

年頭の言葉を「四海生春風（しかいしゅんぷう）をしようず」としたためました。六百通程の年賀状の数十枚は、この言葉を自筆したものを印刷させて頂きました。新年を迎え、清々しい春風（はるかぜ）が四海（しかい）と読みます、四方の海の事で国内はもとより

世界を意味します）に吹き渡る様子を表現しています。様々な危機的状況下にある中、この新しい年が、春風のようにさわやかなで清らかな風が、国内はもとより「四海（しかい）」に吹き渡って欲しいと心から願うての事です

◇今年は、「己丑（つちのとうし）」の年です。

五行（ごこん）である木（き）・火（ひ）・土（つち）・金（か）・水（すい）が、陽（よう）と陰（いん）を組み合わせ、陽が兄（え）であり、剛強・動の性質で、陰を弟（と）といひ、柔和・静、これを兄弟（えと）といいます。干支（えと）の呼び名の由来です。昨年（こぞ）に引き続き「土（つち）」の支配する年ですが、土は土でも、昨年は、陽で「山や丘の土」今年（ことし）は、陰で「田・畑の土」であります。「己丑（つちのとうし）の年」です。己（き）は、もともと「紀（すじの意）」をその語源としていて、十分に繁茂して盛大になっていて、なおかつ理路整然としている状態をあらわしています。丑は、「丑（ちゆう）」と読み、「かむ」という意味があり、新しく誕生した命が、大きく成長する力をたくわえている有

様です。

丑は動物では、「牛」があてられています。我々人類は、長い歴史の中で、牛という動物によつて、食糧（肉や乳製品）・労働力（田畑を耕す）・衣料（牛皮）・肥料・娯楽（牛追物等）・交通（平安時代の牛車等）、戦場（木曾義仲の火牛の計）等、沢山の恩恵にあずかっています。今日の繁栄や文明の開化、さらには文化の興隆、その長い道のり、まさに「牛歩千里」、ゆつたりとはしていますが、牛という動物の着実な一歩あればこそではないでしょうか。

この年が、混迷深まり行く世相の中で、善き事や幸せにからみ、悪しき事や災いにはからまず、理路整然とした繁栄への道筋にむけて、大きく成長する力をたくわえ、「牛」にあやかり、確実な一歩を踏み出す事を心から願うものです。

◇宮司に就任して四回目の新年を迎えました。

これも偏に数多の方々のお力添えお支えの賜物でありまして、心から感謝申し上げます。しかも、本年は、愈々御創祀八百五十年の

佳節、四月より記念事業の御神殿透塀工事(ごしんでんすきべいこうじ)も着工となります。これからも、「天喜心(神様を喜ばすところ)」で御奉仕を申し上げ、その心で運命共同体としての地域社会を築き、「地喜」さらに、人を喜ばす、「人喜」、まさしく「天の時」(時間)「地の利」(空間)「人の和」(仲間)、麗しい「天地人」であるよう努力申し上げたいと思いを新たにしています。

大神様の御加護によりまして、幸せ満ちあふれる年でありますよう心からお祈り申し上げます。

◆十二月の祭典行事報告

▼大しめ縄おろし齋行 *十二月七日



▼下関三井化学災害防止協議会技術部会参拝

*十二月十七日



▼朝粥会 *十二月二十一日早朝



▼天長祭齋行 *十二月二十三日



▼正月臨時巫女説明会 *十二月二十三日



▼大祓式、除夜祭 *十二月三十一日

◆一月の祭典行事

▼歳旦祭

*一月一日

(本宮・福浦金刀比羅宮・田の首八幡宮貴布

禰神社)

*一月十一日(六連島八幡宮)

▼元始祭 *一月三日

▼会社新年祈願参拝 *一月五日

▼福浦金刀比羅宮月次祭 *一月十日

▼当宮早起会新年祭 *一月十二日

▼朝粥会 *一月二十一日

※どなたでも参加できます、祈願祭終了

後に宮司の講話、お粥を食します

(七草粥を予定しています！)

◆一月の宮司の予定

▼彦島地区新年名刺交換会 *一月八日

▼山口銀行彦島はってんくらぶ新年会 *一月七日

▼当宮維蘇志会新年例会 *一月十五日

▼神社庁下関支部総会 *一月二十八日

▼宗教教誨活動

(美祢社会復帰促進センター)

*一月十九日・二十六日(集合教誨)

▼山口県神社庁下関支部三役会 *一月二十五日

▼山口県神社庁下関支部総会 *一月二十八日

▼山口県神社庁下関支部総会 *一月二十八日

社務日誌抄

平成二十年七月〜十二月

七月九日

- ▼六連島八幡宮七社祭 十五日
- ▼竹の子島天満宮例祭 二十四日
- ▼田の首八幡宮夏越祭 二十五日
- ▼六連島八幡宮夏越祭 二十七日
- ▼茅ノ輪奉製 二十九日
- ▼夏越祭前夜祭



三十日

- ▼夏越祭御神幸祭



三十一日

- ▼海士郷恵美須神社夏越祭

八月十日

- ▼まほろば学級 二十四日
- ▼山口県氏子青年連合会並びに山口県青年神職会、正式参拝

九月一日

- ▼下関唐戸魚市場(株)参拝



三日

- ▼海上自衛隊ミサイル艇 おおたか艇長他十七名参拝



十日、十一日

- ▼若宮神社例祭奉納平家踊り



二十三日

- ▼秋季祖霊祭



十月三日

- ▼サイ上り神事神役協議会 四日
- ▼六連島八幡宮例祭前夜祭 湯立神事



五日

- ▼六連島八幡宮例祭御神幸祭
- ▼奉納グランドゴルフ大会 十一日
- ▼田の首八幡宮例祭前夜祭 十二日
- ▼田の首八幡宮例祭御神幸祭



十四日

- ▼浅野温子語り舞台 『日本神話への誘い』



十九日
▼秋季例大祭本殿祭、
献茶祭、御神幸祭
山口県無形民俗文化財
「サイ上り神事」



十五日
▼奉納ゲートボール大会
十六日
▼彦島製錬(株)舞子島八幡宮例祭
十七日
▼神宮神嘗祭当日祭
▼くりのみ保育園お祭りごっこ
十八日
▼秋季例大祭前夜祭
*安倍晋三元首相参拝



十二月三日
▼明治祭
▼龍宮神社例祭
▼愛媛県・風早歴史研究会正式参拝
四日



▼奉納剣道大会
▼リバス彦島歴史ウォーク
二十日
▼三菱重工業(株)下関造船所
殉職者慰霊祭
三十日
▼老三町 長崎興幹氏
菊花奉納



十二月三日
▼責任役員総代会
▼祈漁祭
▼山口県神社庁神葬祭研修会

十五日
▼七五三祭
十六日
▼福浦金刀比羅宮大注連縄おろし
二十日
▼全国八幡宮連合總會
於、下関グランドホテル
春汎楼
亀山八幡宮正式参拝
二十三日
▼新嘗祭



十一日
▼彦島第二保育園七五三詣



二十三日
▼天長祭
▼正月臨時巫女奉仕者説明会
三十一日
▼大祓式、除夜祭

八日
▼福岡県神道青年会第一部会正式参拝



五日
▼山口県神社庁下関支部幹事会
七日
▼大注連縄おろし

まほろば
学級
寄稿感想文

去る平成二十年八月十日(日)、
「まほろば学級」を開催しました。

情操教育の一環として、下関市
教育委員会の後援のもと第三回目
を迎え、年々参加者も増加してお
ります。参加児童から寄せられま
した感想文を掲載させていただき
ます。

彦島地区の小学校を通じて、夏
季休暇前にご案内状を配布してお
ります。一日という短い時間では
ありませんが、氏神さまの境内、鎮
守の杜で楽しい時間を過ごしてみ
ませんか。

朝、彦島八幡宮に訪れると、今日
は何をするのかなと、うきうきして
いました。

最初は、手水の作法を教えてもら
い、お清めをしてそれから参拝をし
ました。今日無事に終わることがで
きますようにと、しっかりお祈りし
ました。

あんどん作りをしました。昔の人
は、懐中電灯の代わりにあんどん

照らしていたそうです。夜、ロウソ
クに火を灯した時の明るさが心配で
したが、想像以上に明るくて驚きま
した。昔の人の気持ち少しわかっ
た気がしました。

紙芝居では、遠い昔、下関と対岸
の門司がくっついていていたことや、彦島
を開拓した人の事とか自分たちが住
んでいる彦島の歴史がよく解って勉
強になりました。

昼食では、お手伝いのおばちゃん
たちが作ってくれたカレーライスを
食べました。とても美味しく、おか
わりをしました。また、食べたいな
と思いました。

夕方からのバーベキューでは、た
くさんの友達や保護者の人も一緒に
なって美味しいお肉や野菜などを食
べました。特に、ハンバーグと焼き



そばが美味しかったです。家では、
あまりバーベキューをしないので、
いっぱい食べました。

その後の花火では、手持花火や打
上花火などたくさん種類の花火も
してくれました。ロウソクが一本し
かなかったので、色々な人から火を
もらいました。とても楽しく出来て
よかったです。

最後は、みんなであんどん行列を
行い真つ暗な参道を歩いて、神殿ま
で行き、神様にみてもらおうとみん
な手に持って、お宮の歌を歌いまし
た。最初は緊張したけど、すぐく気
持ちよかったです。

たった一日だったけど、まほろば
学級で知り合った友達と素敵な夏休
みの思い出を作る事ができました。
ありがとうございました。

(野上祐紀子)

僕は、初めて「まほろば学級」に
参加しました。最初は、不安でした
が、みんなで、今日無事に過ごせる
ようにと神主さんにお祓いをしても
らったら、何故かすっきりした気分
になりました。

あんどん作りでは、難しかったけ
ど、みんなで協力して上手に出来ま
した。昔の人は、ロウソクの火で暗



闇を照らしてい
たのだから大変
だなと思いまし
た。

彦島物語の紙
芝居では、彦島
の歴史について、
ほとんど知らな
かったので関心

がもてました。

バーベキューの時には、お手伝い
の人が暑い中、僕たちのために美味
しく焼いてくれました。お宮を背景
にバーベキューをみんなで楽しく食
べる事はなかなか出来ないで貴重
な経験でした。

夜になっての、打上花火やあんどん
行列はともきれいで感動しました。
最後に宮司さんから修了証を授与さ
れたときは、一日あつという間だっ
たとあらためて思いました。楽しい
時間を過ごせてみなさんにありがと
うございましたと言いたいです。

あまり神社に行く事が無かったけ
ど、まほろば学級を通して、新しい
友達ができたり、参拝のやり方や日
本の歴史も少しは解って夏休みの最
高の思い出ができてよかったです思
います。

(東 優樹)



浅野温子語り舞台
『**神話への誘い**』

～彦島八幡宮公演～

去る十月十四日(火)、女優の浅野温子氏をお迎えして『神話への誘い』と題し古事記の語り舞台を開催致しました。これは、山口県青年神職会六十周年記念事業と当宮御創祀八百五十年式年記念行事の一環として行われました。この語り舞台は、平成十五年伊勢神宮公演を皮切りに全国各地にて公演されております。此度の彦島八幡宮公演では、「伊邪那岐・伊邪那美」、「神武東征」の二演目が行われました。とりわけ、「神武東征」は、初演目という事もあり大変注目されました。公演当日は、観客席満員となり月明かりの下、幻想的な中に無事に終了致しました。

平成二十年度 **秋季例大祭**

十月十八日～十九日齋行

【行事物品協賛の部】

- (有)彦島豆富
- (有)マルイチ彦島醸造工場
- 【行事設営協賛の部】
- (株)副田工務所
- (株)夕ツミ電工

御協賛賜り、

ありがとうございました。

(※順不同)

八百四拾九年伝統

サイ上り神事齋行

彦島迫町在住、園田勝美氏より戦後までもない『サイ上り神事(山口県無形民俗文化財指定)』の写真を寄贈されました。

現在のサイ上り神事は河野通次役の甲冑武者が手に取るのは槍ですが、当時は弓矢を手にとっていたことが写真からうかがえます。

近年では、サイ上り神事協議会を発足し、伝統神事を後世に伝えていくべく関係者一同、心一つにして努めています。



祭事日程(一覽)

(二月～六月)

- ▼一月 一日 歳旦祭
- 三日 元始祭
- 十一日 六連島八幡宮歳旦祭
- 十四日 田ノ首八幡宮歳旦祭
- ▼二月 三日 節分祭
- 六日 初午祭
- 十一日 建国祭
- 十七日 祈年祭
- ※「としごいのまつり」稲作五穀豊穰を祈る
- ▼三月 十四日 南風泊恵比須神社例祭
- 二十日 春季祖霊祭
- ※家の宗旨が神道の方の合同の先祖慰霊祭
- ▼四月 五日 竹ノ子島金刀比羅宮例祭
- 九日 六連島荒神祭
- 十一日 舟島神社例祭、佐々木小次郎慰霊祭
- ▼五月 二十六日 彦島地区戦没者慰霊祭
- 二十九日 昭和祭
- 上旬 塩釜祭
- 十七日 福浦金刀比羅宮例祭
- ▼六月 十日 海士郷恵美須神社例祭
- ※神占神事において、彦島八幡宮夏越祭海上渡御の御座船(神輿をお載せする船)が選定される
- 上旬 貴布禰稻荷神社例祭 (老町)
- 三十日 大祓式

節分祭斎行

平成二十一年二月三日（火）

◎ 行事、その他催しについてはポスター等をご参照下さい。

□ 神事／午後五時三〇分

□ 豆まき／● 第一回 午後五時〇〇分

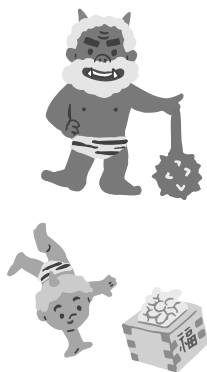
● 第二回 午後六時〇〇分

● 第三回 午後七時〇〇分

※三回目の豆まきは、年男女・厄年・年祝いに当たられるご参拝の皆様方にも本殿にて厄除祈願祭斎行後、豆まきをしていただけます。

※節分祭当日、午後五時～六時三〇分の間に社務所受付（神門をくぐって左手）にてお申込み下さい。（初穂料五千元）

▽一年の無事と皆様方の厄除け開運を願い、平成二十一年の節分祭を執行致します。ご家族お揃いにてご参拝下さい。尚、境内は参拝者の安全確保のため、一般車輛は原則として進入禁止となっております。ご迷惑をお掛け致しますが、公共交通機関、又は臨時駐車場をご利用下さいますようお願い申し上げます。



平成21年 厄年・年祝表

（年祝）

上寿祝	明治43年生（100歳）	数え年100歳のお祝い。
白寿祝	明治44年生（99歳）	百から上の一を取ると白になり、数で云えば99である。
卒寿祝	大正9年生（90歳）	卒は略字で卒と書き九十と読む。
米寿祝	大正11年生（88歳）	米は字をわけると八十八となる。
傘寿祝	昭和5年生（80歳）	傘は略字で傘と書き八十と読む。
喜寿祝	昭和8年生（77歳）	喜は草書で喜と書き七十七と読む。
古稀祝	昭和15年生（70歳）	「人生七十古来稀なり」の漢詩にもとづく。
還暦祝	昭和24年生（61歳）	干支が丁度一巡し、誕生の年と同じになるので本卦返りともいう。

（厄年）

厄年は、人生の転換期にあたり災いの多い年と言われています。

特に、**男子42歳・女子33歳は大厄の年**とされ、前後の年を含め前厄・本厄・後厄の3年間身を慎み、氏神様の御加護を願う年とされております。

御神前に静かに額づき、感謝と反省と今後の発展を祈り願う事に大きな意義があります。

厄を祓い清め、氏神様の強いお導きを頂き、大厄を大躍（厄）進、飛躍（厄）の年として下さい。

平成21年度厄年の早見表は下記の通りです。

性別	年齢	前 厄	本 厄	後 厄
男	25歳	昭和61年生（24歳）	昭和60年生（25歳）	昭和59年生（26歳）
	42歳	昭和44年生（41歳）	昭和43年生（42歳）	昭和42年生（43歳）
	61歳	昭和25年生（60歳）	昭和24年生（61歳）	昭和23年生（62歳）
女	19歳	平成4年生（18歳）	平成3年生（19歳）	平成2年生（20歳）
	33歳	昭和53年生（32歳）	昭和52年生（33歳）	昭和51年生（34歳）
	37歳	昭和49年生（36歳）	昭和48年生（37歳）	昭和47年生（38歳）

（七五三祝）

髪置祝	平成18年生の男女（3歳）	髪を伸ばし整え始めること。
袴着祝	平成16年生の男子（5歳）	男の子が初めて袴をはき始める年齢。
帯解祝	平成14年生の女子（7歳）	女の子が今までの紐付着物から帯を締める大人の着物に替える年齢。

（丑年生まれ）

大正 2年、14年
 昭和 12年、24年、36年、48年、60年
 平成 9年、21年

明治天皇御製 昭和天皇御製

御製とは、一般に天皇御自らお詠みになられた和歌のことです。

当宮では、毎日朝拝、夕拝時に宮司以下職員全員にて奉唱しています。その中から各五首ご紹介します。



(明治天皇)

國民も つねにこころを あらはなん みもすそ川の 清き流れに
神葉に かくる鏡を かがみにて 人もこころを みがけとぞ思ふ
とこしへに 國まもりませ 天地の 神のまつりを おろそかにすな
めにみへぬ 神の心に かよふこそ 人の心の まことなりけり
さしのぼる 朝日のごとく さはやかに もたまほしきは こころなりけり

(昭和天皇)

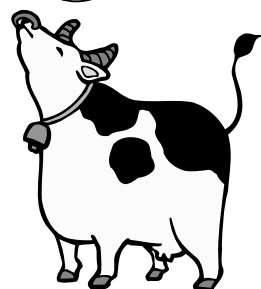
天地の 神にぞ祈る 朝なぎの 海のごとくに 波たたぬ世を
西ひがし むつみかはして 栄ゆかむ 世をこそ祈れ としのはじめに
国のため 生命ささげし 人々の ことを思へば 胸せまりくる
さしのぼる 朝日の光 へだてなく 世を照らさむぞ 我がねがひなる
遠つおやの しろしめしたる 大和路の 歴史をしのび けふも旅ゆく



八幡宮からのお願い

古札類又正月飾等当宮へ

持参される方へお願い



- 一、神社のお札、お守等は守札納所へ納めて下さい。
 - 一、ビニール袋から出して、ビニールは必ずお持ち帰り下さい。
 - 一、正月飾りのみかん、ダイダイは取り外してご持参下さい。
 - 一、正月の鏡餅は持参しないで下さい。
 - 一、神社とは関係ない物の持ち込みはお断り致します。
- 例Ⅱ結納品、人形、仏壇仏具
- 一、神社からお頒けしたものの以外のもを
持込される場合は、必ず社務所までお知らせ下さい。

(正月飾り、お札お守り類を除く)





十月二十一日は、彦島八幡宮が御創祀されたゆかりの深い日です。

このゆかりの日に因み、毎月二十一日を御縁日として朝粥会を行っております。

午前六時三〇分よりご神前に参拝後、大神様のお恵みに感謝し、お粥をいただきます。

参拝終了後、宮司の講話もあります。

静かな朝の時間、お気軽にご参拝下さい。

◆毎月二十一日

午前六時三〇分〜七時二〇分頃まで

◆お初穂料はお気持ちをお願いします。

(五〇〇〜一、〇〇〇円程度)



彦島八幡宮 オリジナル祭事暦

数に限りがございますので、ご希望の方はお早めに、社務所までお問い合わせください。

(タテ六三 cm / ヨコ四六 cm)



彦島八幡宮会館

瑞鳳殿の御案内

祝宴、披露宴、新年会、忘年会、歓送迎会、各種懇親会、年祭・法要等全てに対応しております。仕出し等の各種弁当もご用意できます。ご予算献立等詳細はご連絡下さい。完全予約制ですので予めご了承下さい。

(予約センター連絡先) 卍〇八三―三三四―〇七三三

※社務所にも受付けておりますのでお気軽にご相談下さい。

*洋ホール一〇〇名対応

*和室十二畳 (※六畳二部屋)

*和室二十畳 (※十畳二部屋)

八幡宮だより

宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘の舞台、巖流島（正式には舟島）には浮棧橋ほど近くに舟島神社が鎮座し、佐々木巖流剣客の慰霊碑も建立されています。現在では関門海峡のシンボル海上公園として整備されており、多くの観光客が訪れています。この巖流島を、下関市内のボランティア団体『野菊の会』が定期的に清掃活動を行っています。

毎年、四月の第二土曜日に彦島自治連合会様から委託を受け、舟島神社例祭と佐々木巖流剣客の慰霊祭を厳粛に斎行させていただきます。よろしくお願いいたします。



編集・発行

彦島八幡宮社務所

下関市彦島追町五丁目十二番九号

TEL 〇八三―二六六―〇七〇〇

FAX 〇八三―二六六―五九一一

ホームページ <http://www.hkosshin-guinet>

平成二十一年一月十五日

印刷・㈱ナカハラプリンテックス